



齋藤 忍

株式会社NTTデータ

技術開発本部 ソフトウェア工学推進センタ

シニアエキスパート

NTTデータの上流プロセスの取り組みのご紹介

プロフィール

2001年慶應義塾大学大学院理工学研究科修士過程修了。同年、株式会社NTTデータ入社。ユビキタスコンピューティング、エンタープライズアーキテクチャ、要求工学の研究開発に従事。現在、技術開発本部ソフトウェア工学推進センタに所属。2007年慶應義塾大学大学院理工学研究科博士課程修了。博士（工学）。

講演概要

近年のシステム開発では開発プロセスの初期段階における要求分析の重要性が指摘されています。特に要件定義に入る段階で開発するシステムの目的や要件の内容が不明確であると、ステークホルダの議論の混乱や手戻り発生のリスクが高まります。NTTデータでは、要求の定義や管理を体系的に取り扱う要求工学の研究開発に取り組んでいます。本講演では、上流プロセスの品質向上・高度化を実現するために進めている以下の3つの取り組みについてご説明します。

1. 方法論（TERASOLUNA開発手順）
2. モデリング技法（IMDA・MOYA）
3. 第三者検証（要件定義書スコアリング）

併せて、講演者も策定・執筆を担当いたしました要求工学知識体系（REBOK：Requirements Engineering Body Of Knowledge）と上述の取り組みとの関連性、および上流プロセスにおけるモデルベース開発の研究開発の取り組みについてもご紹介します。